

1. 授業科目名	ひきこもりと家族機能 ～虐待やDVなど問題を抱えた機能不全家族とは～		
2. 担当教員名	四戸智昭		
3. 授業の概要	家族機能を見ていこうとする試みは、ひきこもりや不登校といった問題を、当事者だけの問題として把握するのではなく、それらの問題が発生している家族を全体として捉えようとする試みである。ここでは、ひきこもりという問題の除去を最初に試みるのではなく、どうしてひきこもりという問題がその家族に発生しているのか？あるいは、なぜその家族にひきこもりという問題が必要なのか？という視点が重要である。また、そういった問題を抱えた当事者や家族への支援としてどのようなものが考えられるかについても学習することが本講義の概要である。		
4. 到達目標	機能不全家族の理解、ひきこもり当事者を抱えた家族の状況を理解すること		
5. 授業内容・授業方法等	コマ	授業内容	授業方法
	1	ひきこもりと家族機能 ～虐待やDVなど問題を抱えた機能不全家族とは～	講義
	2	ひきこもりと家族機能 ～虐待やDVなど問題を抱えた機能不全家族とは～	講義・試験
6. テキスト・参考文献等	湯沢雅彦『データで読む家族問題』NHKブックス 斎藤学著『家族依存症』誠信書房発行 斎藤学著『アダルト・チルドレンと家族』学陽書房発行 斎藤学著『家族神話があなをしばる』NHK出版 A・Wシェフ著『嗜癪する社会』誠信書房発行 田辺等著『精神保健相談のすすめ方Q&A』金剛出版発行 西尾和美著『アダルト・チルドレンと癒し』学陽書房発行 ジュディス・ハーマン『心的外傷と回復』みすず書房 四戸智昭著『浪費を止める小さな習慣』光文社発行 丸山久美子編、日野原重明、柏木哲夫、四戸智昭 他、『21世紀の心の処方学 - 医学・看護学・心理学からの提言と実践』アートアンドブレイン出版 門田、松浦、四戸他『不登校・ひきこもりサポートマニュアル』少年新聞社		
7. 成績、評価方法・基準	試験によって評価する		
8. 特記事項	特になし		

1. 授業科目名	安全で安楽な食事への援助		
2. 担当教員名	櫛 直美		
3. 授業の概要	「食べる」という行為のプロセスと嚥下機能の仕組みについて理解を深め、摂食・嚥下機能に問題があった場合でも、安全で楽しい食事ができるための援助について考えていく。また誤嚥等の事故が起こった場合、迅速に救急処置が実施できるようその方法を知る。		
4. 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「食べる」機能について仕組みを理解する。 2. 摂食・嚥下障害について学び、安全で楽しい食事の支援について考える。 3. 誤嚥等の事故に対応できる救急処置を体験する。 		
5. 授業内容・授業方法等	コマ	授業内容	授業方法
	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「食べる」機能の仕組みについて 2. 摂食・嚥下障害の理解 3. 安全で楽しい食事への支援 	講義
6. テキスト・参考文献等	配布資料		
7. 成績、評価方法・基準	筆記テストで評価		
8. 特記事項	特になし		

講義日程・時間	
8月18日 木曜日	3 限目

1. 授業科目名	歯の健康とQOL	
2. 担当教員名	小野 貴司	
3. 授業の概要	歯の基本的構造と歯科疾患及び発育にともなう口腔機能の役割についての概説。	
4. 到達目標	歯科の基本的疾患と成長における口腔の役割に対する理解を深める。	
5. 授業内容・授業方法等	コマ	授業内容
	1	入り口としての口腔 歯の成長 虫歯・歯周病 歯の外傷 噛むとは
		授業方法 スライド
6. テキスト・参考文献等	今日の歯科事情を考える クインテッセンス出版株式会社 フッ化物についてよく知ろう デンタルダイヤモンド社 子供の歯に強くなる本 クインテッセンス出版 食の摩訶不思議 東京臨床出版	
7. 成績、評価方法・基準		
8. 特記事項		

講義日程・時間

8月18日 木曜日

4 限目

1. 授業科目名	子どもの心のほぐし方と教師の自己表現		
2. 担当教員名	石川 フカエ		
3. 授業の概要	<p>子どもとの人間関係づくりは、まず子どもとの出会いから始まる。子どもの言葉と、言葉にならないつぶやきや、心の叫びをどのようにして捕まえることができるであろうか。子どもの心のほぐし方を演習し、子どもの心を解き放すスキルの一方法を体験・体得することによって、子どもの心に迫る。このスキルは担任・養護教諭の垣根はない。</p> <p>一方教師は常に子どもと対峙しており、教師同士の間関係の悩みにも明るく賢明なやり方で向き合っていかなばならない立場でもある。そこで教師の自己表現をどうすべきかについても考察できる機会としたい。</p>		
4. 到達目標	子どもの思いを受け止め、教師の思いを表現するコミュニケーションスキルと教師自身の自己表現の方法を学ぶ。		
5. 授業内容・授業方法等	コマ	授業内容	授業方法
	1	<p>傾聴の意義と技法</p> <p>1) 傾聴の意義</p> <p>2) 傾聴の前提となる考え方</p> <p>3) 基本的な態度 自己一致 無条件の肯定的配慮 共感的理解</p> <p>4) 自己のこころ構え 傾聴の技法</p>	講義と演習
6. テキスト・参考文献等	<p>佐藤綾子『教師のパフォーマンス入門』金子書房</p> <p>青木きよ子『親の思いを表現するコミュニケーション』サイエンス・オブ・タイムズ2010年3月号</p> <p>鈴木みどり『親の愛情を子どもに伝える方法』サイエンス・オブ・タイムズ2011年7月号</p>		
7. 成績、評価方法・基準	講義終了後に試験演習(心をほぐす演習)を行い提出物で評価を行う。基準は他の教化に準じて行う		
8. 特記事項	クレパス・画用紙は大学にて準備する		